

人権なら

2016年12月1日

第72号

NPO なら人権情報センター

●ひと・まち・生き生き

「西の京」をフィールドワーク

三宅町人権講座で西大寺奥ノ院などを歩く

第3回三宅町人権講座が11月7日にあり、「西ノ京を歩く」をテーマにフィールドワークを行った。コースは近鉄西大寺駅ー西大寺奥ノ院ー菅原神社・喜光寺ー垂仁(すいじん)天皇陵ー五条郷墓ー西山ナカノ墓ー救癩(きゅうらい)施設・西山光明院跡。吉田栄治郎・天理大学非常勤講師が案内した。



近鉄西ノ京駅から歩き出し、西大寺に沿って少し行くと奥ノ院(写真)がある。鎌倉時代の僧、叡尊の墓所である。巨大な台座の上には五輪塔が建つ。西大寺は奈良時代の終わりごろに創建。平安時代に衰亡したが、鎌倉時代に叡尊らによって再興された。

叡尊は大和国箕田荘(現大和郡山市)で生まれ、非人救済に力を尽くし、畿内各地に非人宿を作ったとされる。非人宿とは、病気(「癩」など)を患ったために共同体を離れ、流浪していた人々が作った集落だ。寺院の庇護を受けた。寺院からは「職員」が派遣され、収容された非人を世話した。彼らは浄人(じょうにん)と呼ばれ、後には非人宿の住人となった。江戸時代には、夙(しゅく)と呼ばれ、現在まで続く被差別集落の一つになったという。鎌倉時代、大和には17の非人宿があり、ほとんどが寺院の周辺にあった。

喜光寺(菅原寺)は行基が722年に建立

菅原神社・喜光寺(菅原寺)の祭神は菅原道真(すがわらみちざね)。この地は菅原氏(もとは土師氏)の

本貫地で、道真もこの地で生まれたと伝えられる。土師氏は出雲国の国造、野見宿禰の子孫だと唱えたが、平安時代初めに変姓を求め、大江氏・秋篠氏・菅原氏などに分かれた。神社の西にある菅原寺は薬師寺の末寺で、喜光寺と呼ばれている。

菅原寺は行基が養老6年(722)に創建したとされる。行基は天平21年(749)、この寺で没した。遺言により、生駒仙房(現在の竹林寺)の南方の丘で火葬。竹林寺に埋葬された。鎌倉時代に舍利(遺骨)を入れた瓶が発見された。大正10年、国史跡に指定。

救癩施設だった西山光明院

垂仁天皇は第11代天皇で崇神天皇の皇子。現在の垂仁天皇陵には誰が葬られているか分からない。被差別部落の草場権の由来を記した「河原巻物」や、近世の被差別集落である夙が主張する「土師部末裔由緒」にも、垂仁天皇との関係が記されている。五条郷墓は柏木、横領など、八カ村の共同墓地。三昧聖(隠亡)が火葬や、石塔の造立などに携わった。

西山光明院最後の住人・西山ナカは奈良南部の裕福な商家に生まれた。大阪の商家に嫁ぎ、子どもを1人生んだが、20代半ばに「癩(らい)」に罹患。そのため、婚家を追われ、明治4年(1871)、西山光明院に入所。大正7年(1918)、死去した。建物も直後に焼失。ナカは死後も故郷に帰ることなく、無縁墓(写真)に眠る。



西山光明院に住んだ「癩」者は大和一国の勸進権(かんじんけん)を認められ、村々を巡在して、春・秋2期の初穂を得る権利を持っていたという。

御所市周辺をフィールドワーク

県立同和問題関係史料センターが歴史講座

県立同和問題関係史料センターの第4回県民歴史講座が10月25日にあり、「御所市周辺社会の社会的諸関係と生活・文化」をテーマにフィールドワークを行った。コースはJR御所駅—下街道—鴨都波神社—恵比寿神社—太神社—真竜寺—県薬事研究センター—(昼食)—葛城川—御所藩陣屋跡—吉祥草寺—圓照寺—安位寺町石。奥本武裕・同所長が案内した。



葛城川を挟んで西側には、下街道に沿って町場が形成され(西御所)、慶長5年(1600)の桑山元晴の入部に伴って、東側に陣屋と陣屋町が建設された(東御所)。以降、奈良盆地南部の中心的な都市的集落として発展してきた。「御所町」と公称されるが、江戸時代を通じ、村として位置付けられた。村高は1,492石余と天保郷帳に記されている。明治22年(1889)の町村制施行によって、御所町となった。1896年に南和電気鉄道(現近鉄御所線)の尺土駅—南和御所町駅(現近鉄御所駅)間が開通した。

真竜寺墓地に水平社を支援した今田丑松碑

午前中は西御所と周辺を歩いた。下街道は奈良盆地西部を南北に走る。高田・御所を経て葛城川に沿って風の森峠を越え、宇智郡に至る。鴨都波神社—恵比須神社—太神社をめぐり、真竜寺へ。境内の墓地には今田丑松の碑がある。西光万吉、阪本清一郎、米田富らと親しく、創立期の水平社を支援。大正12年(1923)の水国闘争では調停役を務めたとされる。

県薬事研究センターは、薬業の振興、県民の保健衛生・社会福祉の向上を目的にさまざまな研究を行っている。日本の配置薬業の中心は奈良県と富山県。奈良では主に高取町と御所市で発展した。センター

内には、薬用植物見本園がある。

午後は東御所を歩いた。葛城川は金剛山東麓に発し、御所市街を貫き、大和高田・広陵町で曾我川に突き当たる。元文5年(1740)、葛城山麓で降った豪雨で堤防が決壊。大水害「御所流れ」が発生した。御所藩陣屋跡のあった場所は不明だが、外堀川・内屋敷・東外屋敷・西外屋敷などの地名が残る。

素人博労は若い牛、穢多博労は老病牛を取引

吉祥草寺は役小角(えんのおづぬ)の創建と伝えられる。延喜2年(902)に醍醐寺の開山聖宝(しょうぼう)が再建したとされる。修正会の結願日である14日

夜に執行される「松明灘々会(とんどだだえ)」は有名。毎年9月には牛滝法要がある。御所町近隣の蛇穴(さら



ぎ)には江戸時代から昭和の戦前まで牛市が開かれ、主に中国地方からの「登り牛」が取引された。

牛馬の商いを行う人は博労(ばくろう)と呼ばれ、江戸時代の博労には素人博労と穢多博労がいた。素人博労は若い牛を取引し、穢多博労は老病牛を取引した。だが、穢多村が持つ斃牛馬無償取得権益との間で軋轢が生じた、と史料に残る(史料センター「紀要」第1号・1994年3月、吉田栄治郎論文)。歴史が「物語」として膨らみ、わくわくして興味深い。

吉祥草寺の境内には供養塔がある。「金壺千圓大和朝鮮牛移入組合」の文字が刻まれている。

最後に、圓照寺を訪れた。浄土真宗本願寺派。江戸時代には五箇所御坊の1つとして、奈良盆地の西本願寺末の寺院を統括する役割を担った。本堂は天保4年(1833)に改築され、対面所、庫裏を持つ大規模な寺院。本堂左側に、みごとな御所柿(ごしょがき)の木がある。江戸時代にはブランド柿として、畿内一円に広まり、栽培された。境内の墓地には「大和緋(やまとがすり)」を創始した浅田松堂の墓がある。

横浜市教委・と場労組が研修

毎年続く奈良研修は20回目を数える

横浜市教委と横浜と場労組が11月11-13日、奈良研修を実施した。今回で20回目の奈良研修。きっかけは横浜と場労組と、部落解放同盟上但馬支部との交流会だった。以来、毎年続いている。

初日午後、一行は大和郡山市で靴を製造している(株)クリアを訪問。

紳士靴の製造工程(底付け)を見学した
=写真。山田信昭・社長が製靴業界の現状などを説明。



「国内での靴の生産は厳しい。当社でも、中国やバンラデシュからの輸入がほとんどだ」と語った。

大和郡山市の被差別部落とその歩み

その後、大和郡山市「西田中町ふれあいセンター」に移動。NPOなら人権情報センター郡山支局の村井孝之さんがあいさつ。吉田栄治郎・天理大学非常勤講師が「大和郡山市の被差別部落とその歩み」と題して話をした=写真。

吉田さんは「部落は全国均一の歴史と実態を持つのではない。多様な歴史を持つ集落と人の総称」である。呼び名も、江戸時代には、

関東では「長吏(ちょうり)」、東海では「皮田」、近畿では「穢多」だった。個々の部落の成り立ちも微妙に異なる。大和の国



には江戸時代末期、72の穢多村があった。大和郡山では、同和対策事業の開始時には被差別部落が4カ所存在したと述べ、その4カ所について説明した。

2日目。午前中は「三宅町あざさ苑」で、山下力さん(写真)と、渡辺哲久さん(写真)の話を聞いた。山下さんは「被差別部落のわが半生」をテーマに、渡辺さんは「ひまわりの家は、これから何をめざすのか？」をテ

ーマに、それぞれ話をした。

山下さんは「部落の現状をどう掴むのか。差別とどのように向き合い、生きてきたのか」を中心に語った。渡辺さんは「ひまわりの家の活動経過を紹介しながら、相模原やまゆり園の事件と秋葉原通り魔事件を重ね、時代の危機感について話をした。また、ピープルファーストの活動を紹介し、「支援とは協働(共闘)だ」と述べた。



午後は、「西田中町ふれあいセンター」に移動。吉田栄治郎さんから地元でのフィールドワークの事前説明を受けたあと、「地区改良事業」が進んだ街中を歩いて回った。

西田中地域をフィールドワーク

西田中地域は、奈良県内最大の被差別部落で、水平社の活動も活発な地域だった。驚くことに、浄土真宗の寺が「浄光寺」「正念寺」「西光寺」と三寺も建ち並んでいる。その一つ、「浄光寺」を見学した。

その後、臨済宗大徳寺派寺院「慈光院」を訪れた。

小泉藩2代目藩主、

片桐貞昌が寛文3

年(1663)に父片

桐貞隆の菩提寺と

して創建した。

表門から書院、

弾宗流の庭園、座敷を合わせ、全体で一つの茶室を構成するという石州流の茶道の理念によって建立されている。なかなかの趣があり、座敷からの景色がとてもよい。抹茶と和菓子をいただき、心地よい時間を過ごした。



途中、「肉屋」に寄って、夜の交流会で食べる馬の肉を燻製にした「さいぼし」と、牛の腸を油で揚げた「油かす」を買い求めた。交流会では、久しぶりにいろいろと話ができて、充実した研修会となった。

確定申告の相談説明会

県中小企業者協会(山下力・会長)は12月5日から9日まで三宅町上但馬団地解放会館など4か所で確定申告説明会を開く。それぞれの説明会は次の通り。

期 日	開 催 時 間	場 所
12月5日(月)	午後6時受付・ 6時15分開会	三宅町上但馬団 地解放会館
12月6日(火)	午後6時45分 受付・7時開会	河合町心の交流 センター
12月7日(水)	午後6時受付・ 6時15分開会	石上コミュニティ センター
12月9日(金)	午後6時受付・ 6時15分開会	西田中町ふれあ いセンター

問い合わせは、県中小企業者協会(TEL:0744-33-3939)まで。

元気に生き生き交流祭

第25回生き生き交流祭が11月13日、秋晴れの下、元気いっぱいに行われた。会場には、うどん、チヂミ、

編集後記 ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

今年も残すところ、あとひと月。この時期、忘年会が開かれる。だが、今年の出来事をきれいに忘れて、チャラにはできない。米国では、トランプ大統領が誕生することになった。移民を排斥するのだと言う。こうした動きは欧州でも見られる。米国は移民の国ではないのか。欧州各国は、かつてアフリカを植民地支配してきた。欧米諸国はイラクなど、中東を戦場化している。その結果として移民が生じている。それを排斥しようとするのは、身勝手きわまる。差別・排外を主張し、それに同調する動きは危険だ。すべての人々が共存できる社会を実現する以外に人類が生きていく道はない。

みたらし団子、かやくご飯、おでんなど、たくさんの出店が並んだ。文化ホールでは、幼児園児が描いた絵画や、各団体の活動を紹介する資料などが展示された。



午後からは文化ホールで交流祭。オープニングは式下中学校吹奏楽部による恒例の楽器演奏で幕が開き、開会式が始まった。



交流祭では、「真楊・和ちゃんデュオ」をはじめ、学童保育クラブ、My舞、ひまわり和太鼓チームコスモス、地域劇団「かいほう塾」と、踊り、和太鼓、そして劇など、数々の演し物が披露され、会場は大いに盛り上がった。



今回、幼児園がインフルエンザのために閉鎖となつて、園児たちは出場することができなかった。

■藤井克徳さんと考える相模原やまゆり園事件・奈良

藤井克徳・日本障害者協議会代表と、事件の背後にある「優生思想」、それを容認する社会の変容、本質に迫る。12月18日(日)午後1時~4時、奈良市立中部公民館(上三条町23-4。近鉄奈良駅5分)。連絡先はピープルファースト奈良(0745-42-1320)。

ニュースレター「人権なら」

発行:NPO法人なら人権情報センター
〒636-0223
奈良県磯城郡田原本町鍵301-1
TEL:0744-33-8585/FAX:0744-32-8833
E-mail:info@nponara.or.jp
http://www.nponara.or.jp/